

3月二水会 報告

3月11日（水）に開催された二水会の報告をします。

講師：北口 久雄 氏（S43年 理）

テーマ：クラークの直弟子かつ札幌農学校第一期生『柳本通義の生涯』

参加者 13名 ZOOM参加者 1名 計14名

第一期生は、13名、15名入学したが2名は退学などで卒業できていない。出身地は、全国に及ぶが多くは東京にあった東京英語学校出身者で、6割を占めている。柳本は三重県桑名藩の出身あるが、やはり東京英語学校出である。第一期生6人組の一人であったが、成績は必ずしも良くなかったようです。二期生には、内村鑑三、新渡戸稲造、宮部金吾など札幌農学校を有名足らしめた偉人が多くいます。

柳本通義の卒業後の初任地は、当時の開拓使の七飯（七重？）勸業試験場で、農園事業を管轄し、ここは明治～昭和初期にかけて主に農業・産業振興のための発達改良、調査、試験、種苗配布などを行う機関だったようです。

柳本は、その後地理課勤務で同期の内田静（工業局土木課）と共に植民地選定事業に従事し、倉本聰の「北の国から」のドラマで今は有名になりましたが、富良野原野の開拓（区画整理事業など）で富良野盆地（美瑛、富良野ラベンダーで有名）などを測量して回ったようです。

そこは講師北口氏の故郷だそうです。

1896年（明治29年）に台湾総督府に転じ、樟腦の専売化などに力を注ぎ、台湾の恒春庁長で退官。1906年京都に転居し、兵庫県の疎水工事の技師・事務所長となりました。